

和風簡易水洗便器 JT

施工説明書

特に注意していただきたいこと

お客様に事故のないよう、施工前に、必ずこの説明書をよくお読みのうえ正しく施工してください。

用語および記号の説明

| | |
|--|------------------------|
| ⚠ 警告 守らないと、重傷を負うことがあります。 | ⊘ 「禁止」「してはいけません。」 |
| ⚠ 注意 守らないと、ケガをしたり、家財に損害を与えることがあります。 | ① 「遵守」「指示通りしてください。」 |
| | ⊘ 「風呂、シャワーなどの水場での使用禁止」 |

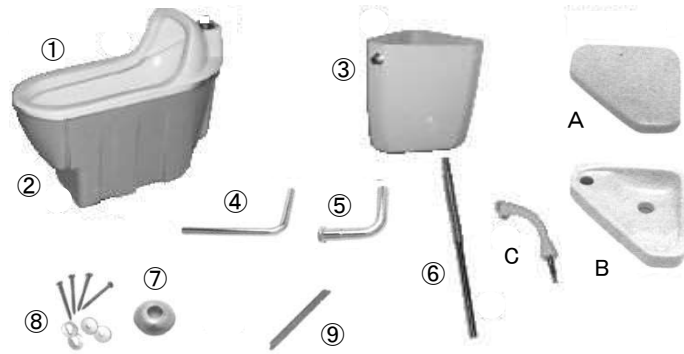
⚠ 注意

| | | |
|---|--|---|
| 便器の汚水配管は、必ず便槽に接続してください。 簡易水洗便器は、便槽に接続する便器です。 | ❗ この施工説明書以外の改造はしないでください。 故障や漏水の原因となります。 | ⊘ |
| 施工後、便器や給排水配管からの漏水がないことを点検してください。漏水すると、床が水浸しになり家財を濡らす原因となります。 | ❗ 電気配線は、必ず専門の電気工事店で行ってください。 資格のない人が電気工事をするのは法的に認められていません。 | ❗ |
| 床に便器を埋め込まないでください。 修理できなくなります。 | ❗ 凍結の恐れのあるときは、注意してください。 凍結防止ヒーターの利用、水抜き、室内暖房など適切な処理を行ってください。 | ❗ |
| 便器は割れものです。施工前に運送破損の確認と施工時での破損がないかを点検してください。 破損部でケガをしたり、漏水して家財を濡らす原因となります。 | ❗ 止水栓からロータンのボールタップまでの給水管は、揺らしても漏水がないよう確実に配管してください。特に、アングル止水栓で配管されたとき、給水L管(サプライ管)のツバのない止水栓側の接続には注意してください。 | ❗ |
| 給水管の接続の際、ボールタップの浮玉が上下、左右に動くことを確認してください。 給水管の袋ナットを締め付けるとき、ボールタップが共回りして浮玉がタンク壁に当り動かなくなると、水が出放しとなります。万一オーバーフローしきれないとき家財を濡らす原因となります。 | 直圧がかかっている水道配管のため、漏水した場合、家財を濡らす原因となります。また、給水L管の止水栓側の差込が少ないと配管が抜け家 | |

温水洗浄便座、暖房便座、凍結防止ヒーター等を取り付ける場合は、各々の説明書をお読みください。

施工の前に

■ 梱包内容をお確かめください。



| 品名 | 数 | 品名 | 数 |
|--------------|---|--------------|-----|
| ① 便器本体 | 1 | ⑧ タンク取付ねじ、座金 | 4 |
| ② 施工枠 | 1 | ⑨ 施工枠変形防止さん木 | 1 |
| ③ ロータンク | 1 | A 手洗なし用フタ | (1) |
| ④ 洗浄管 | 1 | B 手洗付き用フタ | (1) |
| ⑤ 洗浄管(差込み付) | 1 | C 手洗管 | (1) |
| ⑥ オーバーフローレキ管 | 1 | 施工説明書 | 1 |
| ⑦ ワン座 | 1 | 取扱説明書(保証書付) | 1 |

■ 別途に用意していただくもの

| | |
|-------------------------|--------------------|
| ① シールテープ | 水道管の給水口接続用 |
| ② コーキング材 (シリコンシーラント) | 床フランジと導入短管のコーキング用 |
| ③ カールプラグ#14 | 床がタイルやコンクリートの場合に使用 |

■ 必要な工具

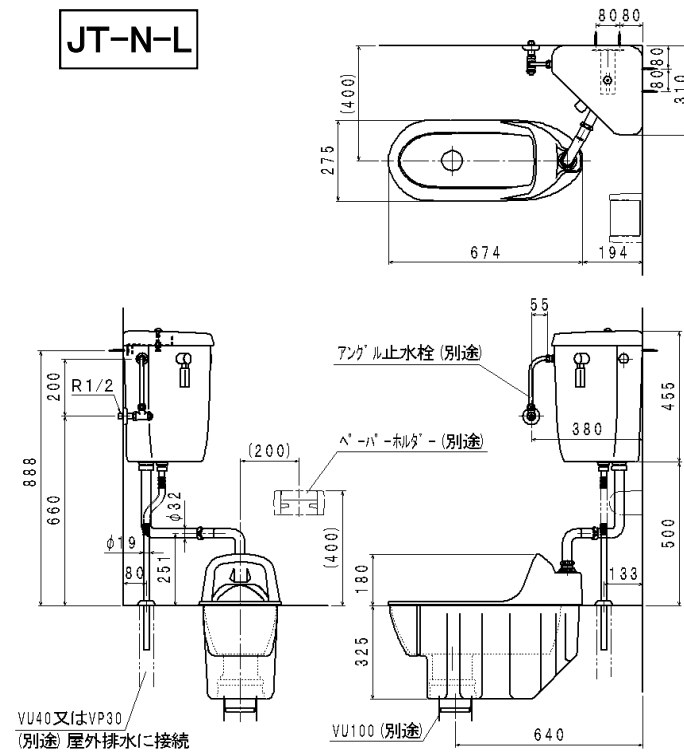
ドライバー(+)、電動ドライバー
スパナ(13)
自在スパナ(モンキーレンチ)
パイプレンチ
コンクリート用ドリル(8mm)、電気ドリル

■ 配管上の注意事項

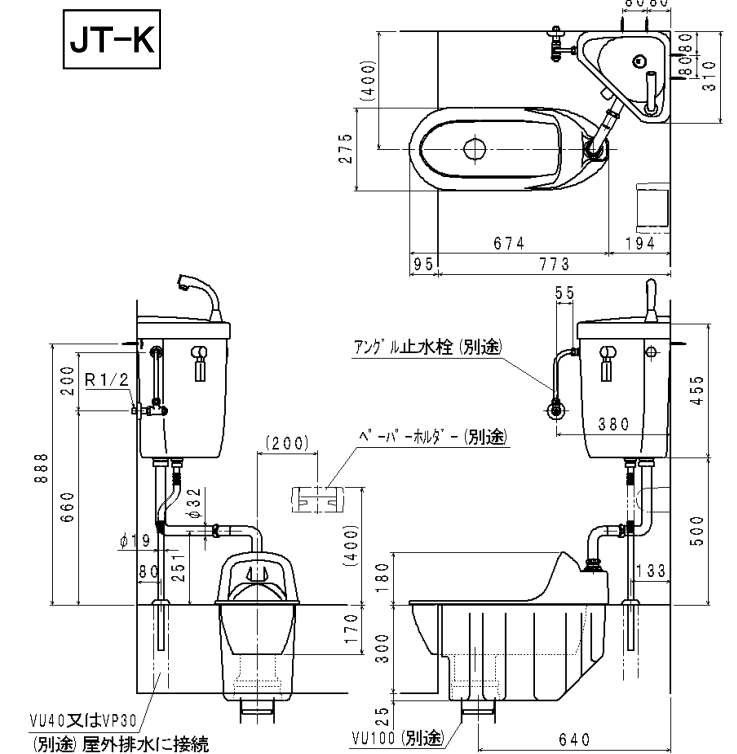
- 配管材料は、JIS K6741に準じた硬質塩化ビニル管を使用してください。
肉厚:汚水管(導入管)・・・2mm以上(ブロー成形品継手類1.6mm以上)
排気管(臭突管)・・・1.5mm以上(ブロー成形品継手類1.2mm以上)
- 汚水管(導入横引き管・導入立管)は、VU100を使用してください。
汚水管(導入管)に使用する継手は、汚水の流下に支障のない形状、構造を有するものを使用してください。
段差で汚物が引っ掛かるような継手は使用しないでください。
横引き管途中には、絶対にエルボを使用しないでください。
- 排気管(臭突管)
次の場合は必ず臭突を設置してください。
① 2階配管など汚水管の長さが1.5m以上の場合
② 小便器を設置する場合
排気管の先端に排気トップ(臭突ファン、ベンチレーター等)を設けてください。
排気トップは、防臭機能に支障のきたさない性能のものを使用してください。
排気トップの下端は、建物の出入り口、窓、換気口等の上端から600mm以上の高さに取り付けてください。
臭突ファンの風量は、70m³/h以下のもの(当社臭突ファン)を使用してください。
バランス開閉弁(オートフラッパー)構造は、臭突ファンの風量が強いとフラッパーが開き放しの原因となります。
- 配管工事完了後、約10%の水を流して配管接合部からの漏水がないか確認してください。
- 水道配管
水道配管工事は、各自治体水道局の指定店で行ってください。
使用水道圧範囲:0.05MPa~0.75MPa
- 2階以上や地下室のある1階に設置する場合、万一のことを考えトイレームの防水や床に排水口の設置をお勧めします。
- オーバーフロー屋外配管からの臭気上りについて
(製造物責任法を考慮した注意書きについて)
オーバーフロー配管は、必ず屋外まで行ってください。また、配管にトラップを設ける等の防臭対策をしてください。但し、凍結の恐れのある場所ではトラップ内の水やオーバーフロー管先端の凍結に十分注意して施工してください。オーバーフロー配管は絶対に便槽に接続しないでください。

■ 寸法図

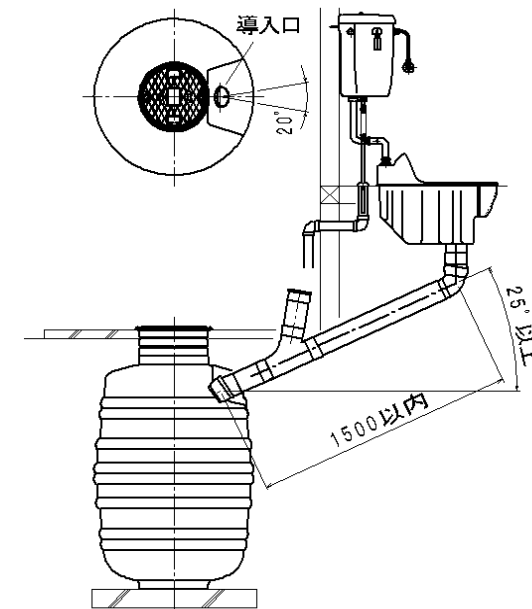
JT-N-L



JT-K



■ 標準施工図



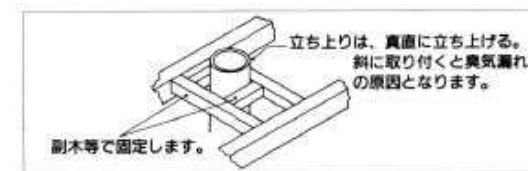
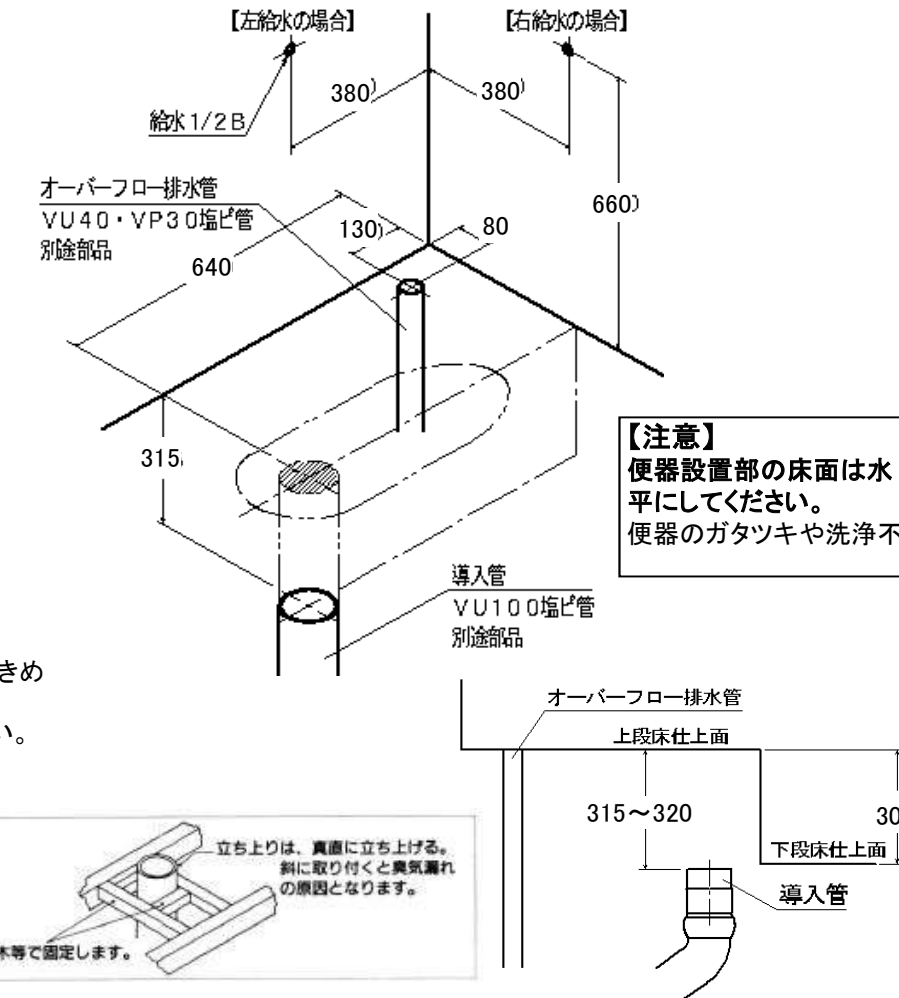
■ 便槽の容量

1人1ヶ月で約100~150%で計画してください。
但し、来客が家族数が増えることが考えて少し大きめのものをご使用ください。
最低でも500%以上の容量のものをご使用ください。

施工の手順

① 給排水管の位置決め

下図に従って、導入短管・給水管の位置を決めてください。



2 施工枠の取付

排水管の位置と高さを確認して施工枠を取り付けてください。

【兼用式の場合】

前カバー部の「兼用式切断線」よりノコ等で切断してください。

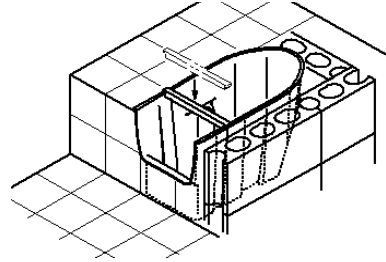
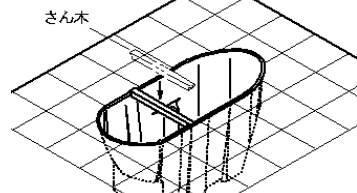
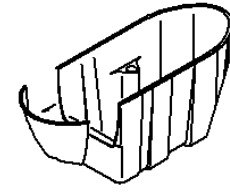
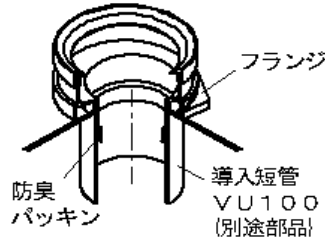
【平床式の場合】

そのまま取り付けてください。

【土盛施工の場合】

床下土盛りの場合、施工枠周囲にブロック又はレンガを置き、土圧が直接かからないようにしてください。

【導入管接合詳細】



同梱の変形防止さん木をはめ込んで間隔を確保してください。

【注意】

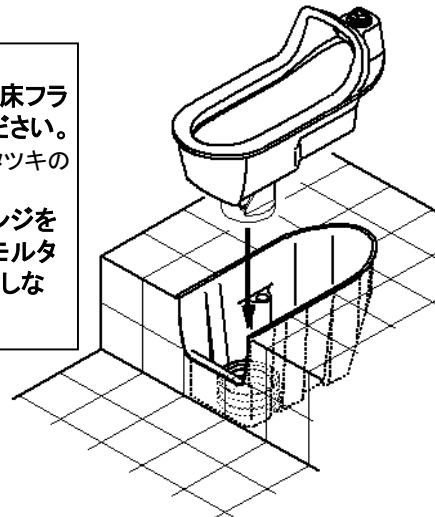
- ・フランジと導入管の間は、確実にコーキングしてください。
- ・不十分のとき臭気漏れの原因となります。
- ・施工枠上面のツバは、床仕上面にのせるように施工してください。

3 便器本体の据付

スタッドボルトを床フランジに立て、ベース本体を床フランジの中に差し込みます。便器が確実に据え付けられたことを確認してから座金を入れ、ナットを締め付け、化粧キャップをかぶせてください。

【注意】

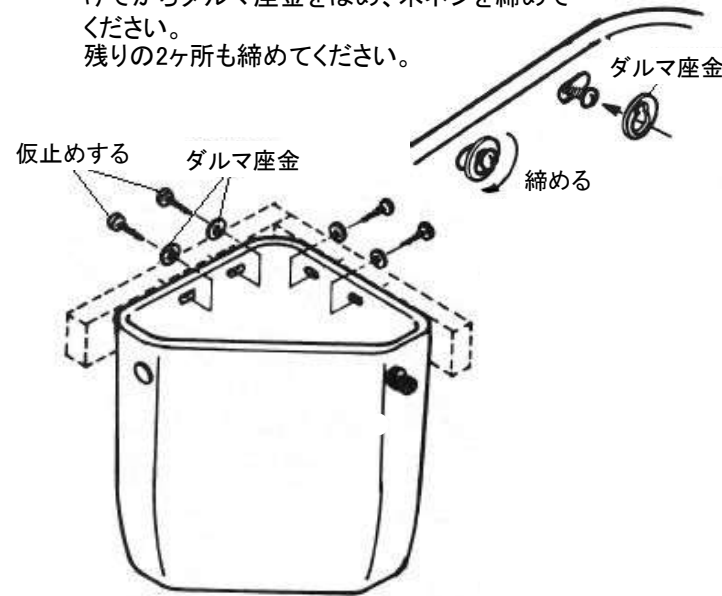
- ・ベース本体を確実に床フランジに差し込んでください。臭気漏れや便器のガタツキの原因になります。
- ・ベース本体と床フランジを接着したり、便器をモルタル等で埋め込んだりしないでください。



4 ロータンクの取付

ロータンクを壁に取り付けてください。

木ネジを片側2ヶ所仮止めし、ロータンクをかけてからダルマ座金をはめ、木ネジを締めてください。残りの2ヶ所も締めてください。

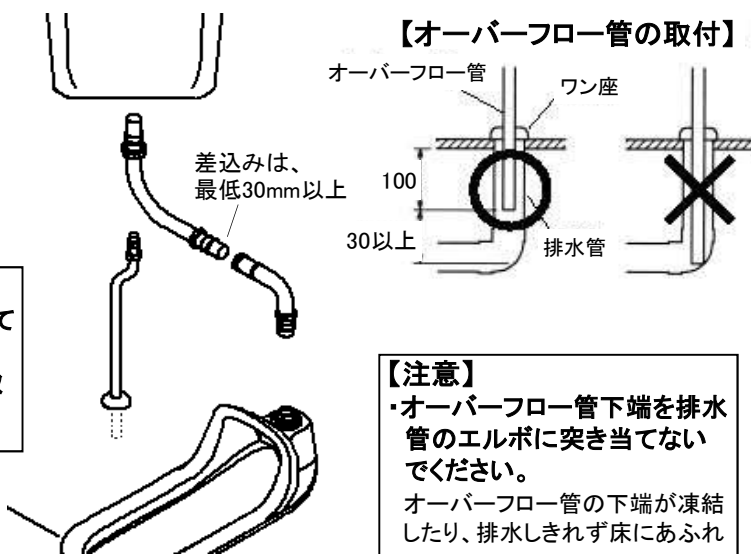


5 洗浄管・オーバーフロー管の接続

取付寸法に合わせて洗浄管とオーバーフロー管を切断し、各袋ナットを締めて接続してください。洗浄管の横引き長さは、最大460mmです。長さが足りない場合は、片アジャストパイプAPH-17を使用してください。

【注意】

- ・洗浄管は水平・垂直に取り付け、差込みは最低30mm確保してください。
- ・管切断後の切粉が管内に残らないように水洗い等してから取り付けてください。

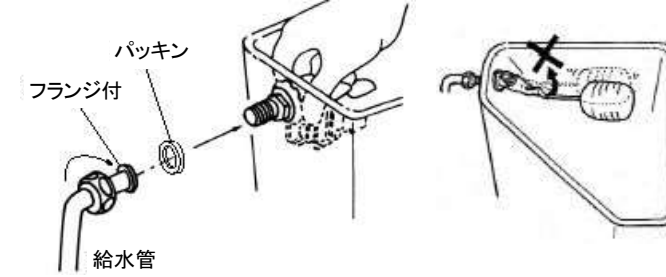


【注意】

- ・オーバーフロー管下端を排水管のエルボに突き当てないでください。オーバーフロー管の下端が凍結したり、排水しきれず床にあふれ

6 給水管・手洗の接続

アングル止水栓を取り付け、給水管をボールタップに接続してください。

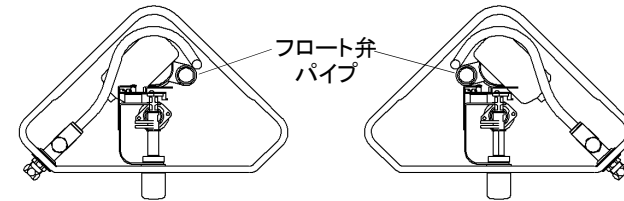


【手洗無・右給水の場合】

左給水で工場出荷しています。右給水にするときは、フロート弁とボールタップを付け替えてください。フロート弁の取付ナットを緩め、パイプの位置を反転して浮玉やレバー作動部が当たらないように取り付けてください。ボールタップを反対側に取り付けてください。

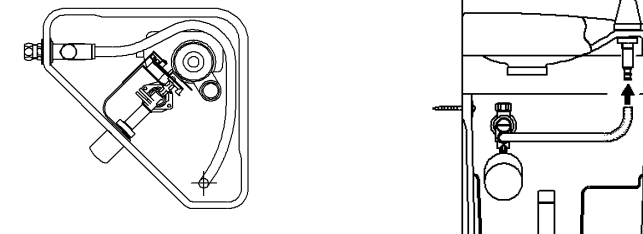
左給水

右給水



【手洗付・左給水の場合】

ゴム管は、レバー作動部分に当たらないようフロート弁パイプの外側を回して取り付けしてください。ゴム管先端を手洗管に差し込んでください。抜けないように奥まで差し込んでください。

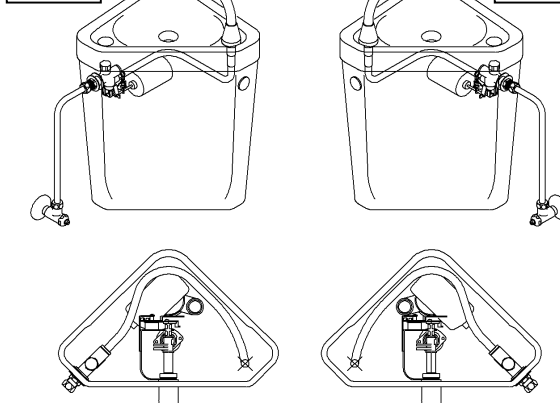


【手洗付・右給水の場合】

ボールタップ、手洗管、フロート弁を付け替えてください。手洗管の取付は、ボールタップの取付位置の反対側にしてください。ボールタップと同じ側に手洗管は取り付けできません。フロート弁の取付ナットを緩め、パイプの位置を反転して浮玉やレバー作動部が当たらないように取り付けしてください。

左給水

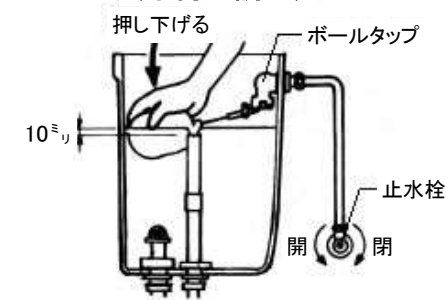
右給水



【注意】

給水管の接続の際、ボールタップの浮玉が上下、左右に動くことを確認してください。給水管の袋ナットを締め付けるとき、ボールタップが共回りして浮玉がタンク壁に当り動かなくなると、水が出っ放しとなります。万一オーバーフローしきれないとき家財を濡らす原因となります。

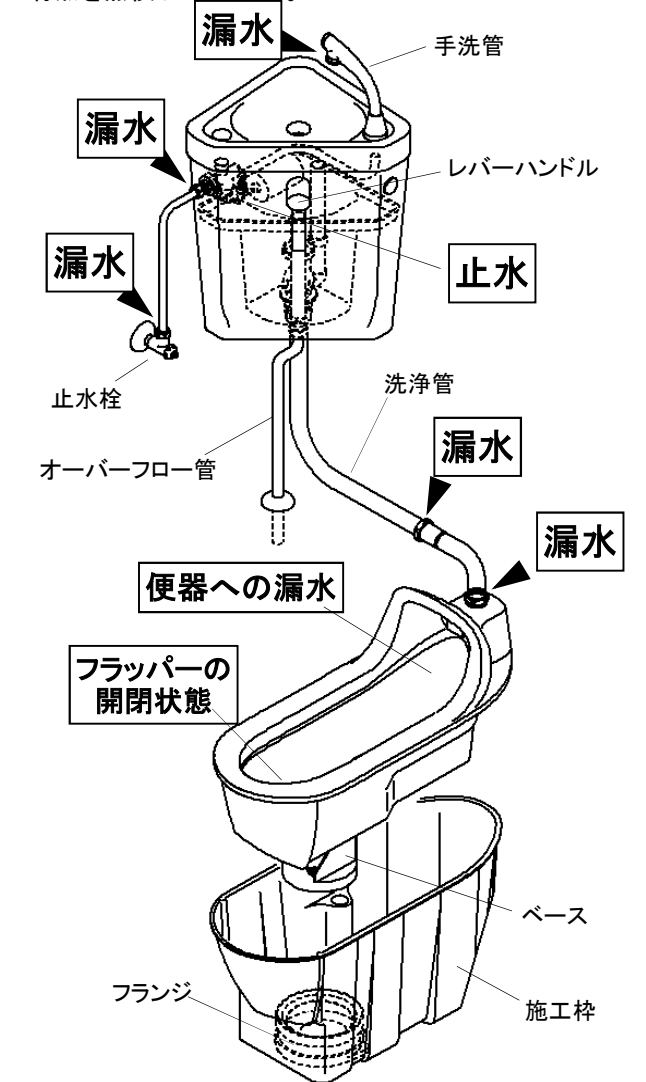
〈水勢の調整〉



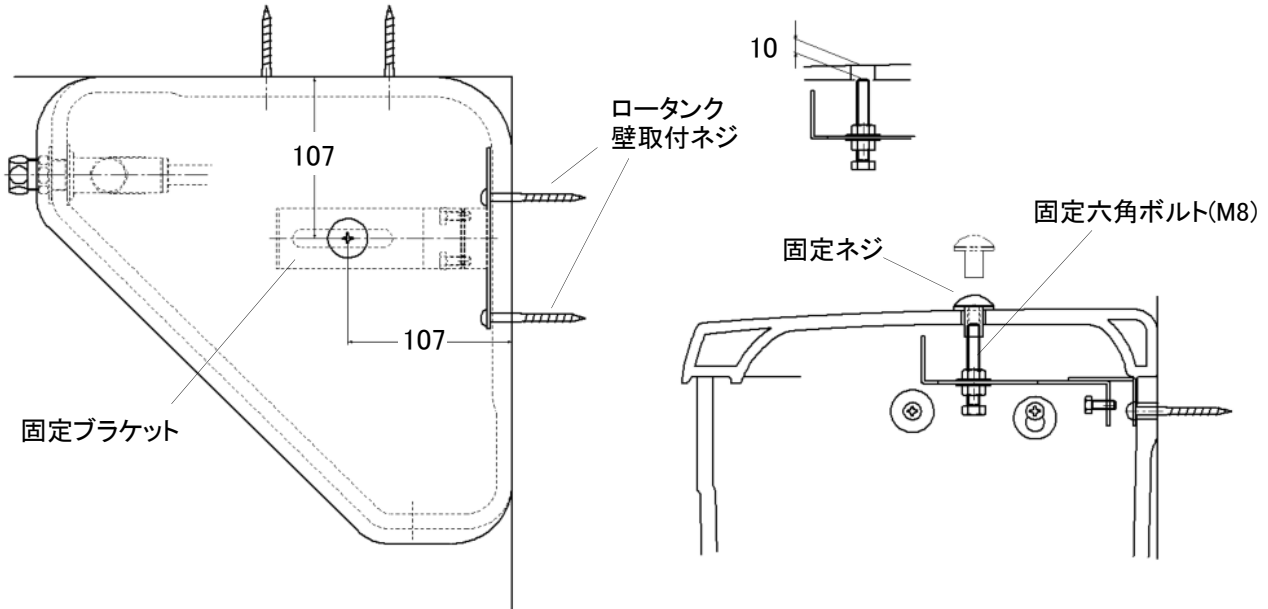
ボールタップが全開に吐水するまで手で浮玉を押し下げてオーバーフロー管へ水をあふれさせます。この時、水面がオーバーフロー管より約10mm以上に上昇しないよう止水栓を調整してください。調整しないと、故障のときオーバーフローしきれずロータンクから水があふれ床が水浸しになります。

6 点検

レバーハンドルを操作し、洗浄水の流れ状態や各部の漏水の有無を点検してください。



工事完了後、取扱説明書(保証書付)を必ずお客様にお渡しください。保証書に必要事項を記入してお渡しください。



- ① フタ固定は、ロータンクの施工後に行ってください。
- ② ロータンク壁取付ネジの片方を外し、固定ブラケットをはさんで再度締め付けてください。
固定ブラケットは、左右どちらでも取付可能
- ③ 固定六角ボルト(M8)がフタの穴中心にくるように、ナットで調節してください。
固定六角ボルト(M8)の上端がフタ上面より約10mm下で固定してください。
- ④ 固定ネジを(+ドライバー)で締め付けてフタを固定してください。